

鹿児島の昆虫 62

奄美大島・徳之島の昆虫

昆虫担当 金井 賢一

世界自然遺産を目指す奄美大島・徳之島には、この地域にしか見られない昆虫（固有種）がいます。また、この地域が成立してから、様々な生きものが侵入と絶滅を繰り返しており、現在分布を広げている最中の昆虫（分布拡大種）も見られます。

固有種

アカボシゴマダラは、国内では奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島に固有な奄美亜種です。これとは異なる中国の亜種が、台湾・中国本土に離れて分布していますが、間の沖縄島や石垣島・西表島などに分布していません。このように、遠く離れた場所に分布している理由は、よく分かっていません。琉球列島が形成されるときに、沖縄島なども分布していたのに消滅したのか、はじめからいなかったのか、化石の残りにくい昆虫では判断できません。同じように隔離された分布は、スジブトヒラタクワガタにも見られます。



アカボシゴマダラ



スジブトヒラタクワガタ

奄美大島のアカボシゴマダラは、近年人による持ち込みで喜界島に広まりました（国内外来種）。中国の亜種も人によって持ち込まれ、1998年頃から神奈川県に端を発して関東地方や伊豆大島などに広がっている外来種です。

もしも関東地方のアカボシゴマダラが奄美大島などに持ち込まれれば、遺伝子が混ざってしまい、奄美亜種は永遠に地球上からいなくなります。

分布拡大種

翅（はね）を持ち、比較的飛翔が得意なチョウなどの昆虫は、海を越えて移動し、分布を

拡大することがあります。特に奄美大島・徳之島の地域は、現在も分布を拡大しようとする昆虫の見られる地域です。



ベニモンアゲハ

ベニモンアゲハはインド、インドシナ半島、ボルネオなどから中国南部、台湾に広く分布しています。台湾から八重山列島に1986年頃、宮古列島には1975年、沖縄島には1992年頃から侵入し、定着しました。

奄美大島は1997年に初記録があり、2002年頃から多くの個体が見られるようになりました。徳之島は奄美群島では最も遅く、2008年に1頭、2009年に2頭の記録があり、近年定着したと思われる。

幼虫は、リュウキュウウマノスズクサなどを食べますが、喜界島やトカラ列島にはウマノスズクサ科が分布せず、本種も侵入できません。しかし、屋久島以北に生えているオオバウマノスズクサは食べますので、この地域では注意しておく必要があります。



アカギの実を食べるラデンキンカメムシ

ラデンキンカメムシは、2010年加計呂麻島の諸鈍小中学校に生えるアカギの木で初めて見つかри、この年のうちに奄美大島・徳之島で広く確認されました。宝島や喜界島でも見つけたことがあります。一時増えましたが、近年は少ないようです。幼虫はアカギの実を食べますが、奄美群島ではアカギは人が運んできた外来種です。ラデンキンカメムシは沖縄から自力で飛んできた可能性もあります。